

上野東照宮



所在地：東京都台東区上野公園9番地88号
 構造：権現造り
 主：宗教法人 東照宮
 施工：松井リフォーム株式会社
 完成：平成25年12月

S250

2014年1月、約5年間におよぶ保存修復工事を終えた上野東照宮。

黄金色に輝く重要文化財のライトアップに電球色のLEDを使用し、荘厳で幻想的な美しさを演出しています。

江戸時代の建築が現存 徳川家康を祀る「金色殿」

上野東照宮は東京都の上野公園内に位置し、徳川家康(東照大権現)・徳川吉宗・徳川慶喜を祀ります。現存の社殿(拝殿・幣殿・本殿)は慶安4年(1651年)に三代将軍・徳川家光が建て直し、大変豪華であったことから「金色殿」とも呼ばれ、江戸の面影を今に残す貴重な文化財です。今回の保存修復工事で、江戸創建当時と同様に金箔をふんだんに使用し、彫刻にも鮮やかに彩色が施され、当時の絢爛豪華な様子が再現されました。

配光タイプの異なるLED器具を巧みに 組み合わせ美しさを表現

ライトアップにより、国の重要文化財である社殿・唐門・透塀の黄金色は暖かみを帯びて輝き、色鮮やかに彩色を施した彫刻は浮き出るように照らされて、厳かで幻想的な雰囲気となっています。昼間とは違う美しい姿は拝観者を魅了します。電球色のLED小形投光器(色温度3000K、演色評価数Ra80)を採用し、唐門へは狭角形(消費電力41W)を2台、社殿の周囲には中角形2台と狭角形8台(ともに消費電力78W)を配置。狭角形と中角形の配光を巧みに組み合わせ立体感と奥行き感を表しています。社殿の屋根中央部と唐門の中央上部にある破風に明るさの重点を置き、社殿の破風で約200ルクスを確保しています。

社殿の構造は、手前より拝殿、幣殿、本殿と続く権現造りとなっています。拝殿は格子天井と様々な姿の鳳凰の彫刻などを暖かみのある電球色の柔らかな間接光で照らし、落ち着いたある荘厳な空間としています。空間と一体化するように笠へ黒色塗装を施した直管形LED片反射笠器具を長押(なげし)に光源が直接見えないように配置しています。さらに、LED小形投光器(色温度3000K、演色評価数Ra80、消費電力26W)広角形で、金色に輝く「東照宮」の文字への誘目性を確保しています。

拝殿から幣殿を隔てて奥に位置する本殿への照明は、幣殿に設置したLED小形投光器(消費電力78W)広角形で拝殿よりも明るさを確保して、拝観者に不快なグレアや眩しさを感じさせることのない、本殿への自然な誘目性をつくり出しています。



社殿、唐門、透塀のライトアップ



拝殿の照明



側面用の小形投光器2台



正面用の小形投光器3台



拝殿から見た本殿の照明



社殿の小形投光器

主な器具一覧		器具名	形名	台数	ランプ・備考
屋外	社殿	LED小形投光器	LEDS-08903LN-LJ9	8	LED 消費電力:78W、狭角タイプ
		LED小形投光器	LEDS-08903LM-LJ9	2	LED 消費電力:78W、中角タイプ
	唐門	LED小形投光器	LEDS-04903LN-LJ9	2	LED 消費電力:41W、狭角タイプ
屋内	拝殿	直管形LED片反射笠器具	LET-41217K-LDJ(改)	10	ランプ別(電球色、3000K、Ra83)
		LED小形投光器	LEDS-02903LW-LJ9	2	LED 消費電力:26W、広角タイプ
	幣殿	LED小形投光器	LEDS-08903LW-LJ9	2	LED 消費電力:78W、広角タイプ